

協働のまちづくり推進委員会会議録

会議名称	令和7年度第1回山口市協働のまちづくり推進委員会
開催日時	令和7年10月29日（水）午後2時00分～4時00分
開催場所	湯田地域交流センター 2階 大・中会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	谷部真吾委員、伊藤一統委員、中野智昭委員、原田尚美委員、丸本華代委員、黒崎詩織委員、木谷博委員、伊藤健司委員、恒冨竹司委員、内山清輝委員、宮成真澄委員、高下憲治委員、柿沼瑞穂委員、西山香代子委員、川口雄一郎委員、中村敬紀委員、木橋悦二委員（計17人）
欠席者	松原勇夫委員、真庭孝雄委員、瀨崎美幸委員（3人）
事務局	地域生活部長、協働推進課長、協働推進課地域づくり担当主幹、協働推進課同担当主査2名、協働推進課同担当主任主事、協働推進課同担当主事（計7人）
議題等	1 第二次山口市協働推進プラン後期推進計画について ア）令和6年度 事業実績 イ）令和7年度 事業進捗状況 2 意見交換 3 その他
内容	次第に沿って以下のとおり進められた。 <事務局> ・配付資料の確認 【地域生活部長あいさつ】 【委員及び職員紹介】 <事務局> ・山口市協働のまちづくり推進委員会規則（以下、「規則」という。）第3条第3項の規定に基づき、委員の過半数が出席していることから、会議が成立している旨を報告 【会長及び副会長選出】 <事務局> ・規則第2条第1項の規定に基づき、会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める旨を説明。 ・事務局から、会長を谷部真吾委員、副会長を伊藤一統委員及び中野智昭委員と定める

ことを提案 → 承認

【会長から就任挨拶】

<事務局>

・規則第3条第2項の規定により、議事進行を会長に依頼

<会長>

- ・会議内容については、要点筆記で議事録を作成し、委員の名前は非公表として、ホームページ上に公開させていただくことを提案 → 了承
- ・本日の会議録署名は伊藤副会長・中野副会長にお願いしたい旨提案 → 了承

【議題1】

議題1 第二次山口市協働推進プラン後期推進計画について、ア) 令和6年度 事業実績、イ) 令和7年度 事業進捗状況につきましては、関連性があることから、あわせて事務局より説明を求める。また、質疑応答については、すべての議事終了後に受け付ける旨を連絡。

<事務局>

資料1～4に基づき説明

【議題2】

議題2 意見交換につきまして、事務局より説明を求める。

<事務局>

資料5に基づき説明。

<会長>

只今説明がありました意見交換のテーマについて、委員の皆様から御意見をいただきたい。

以下、各委員及び事務局の発言要旨

<A委員>

テーマ1と2両方について意見交換ということで、担い手不足について、現代社会においてはどこでもそうだと思う。そして、これまで先輩方が培ってこられた多くの行事

など地域づくりの取組は、本当にすごいものだと思う。ただし今後、人口ピラミッドからしても若い人が絶対的に出てこない。だから、若い方を待っていてもいい。そういった時にどうしたらいいかというところが、今の問題かと思う。そうなってくると、今、地域で行っていた仕事を小さく分けてみる、同じことはできないということを肝に銘じるそんな時期かと思っている。そうすると、今までやってきたことを、「本当にしなければいけないこと」、「したほうがよいこと」で分けてみる。そして、「しなければいけないこと」において、例えば自治会の仕事で回覧板を回すなどといったことが本当に自治会で取り組まなければいけないのかどうか。そういった定義も再定義をする必要があるのと思っている。事業が増える傾向にあるが担い手がいないのであれば、それは縮小するなどの精査をする必要がある。

そして、若い人を取り込みたいという時に考えなければいけないのは、若い人がこれに関わることによってどんなメリットがあるのか、そういったところは検討する必要があると思う。働き方も家族構成も全く今までと違う中で、自分の時間を使って地域のことをやった際にどんなメリットがあるのかというところを考える必要があると思う。

そして最後に、外部人材で地域のことをやってみたいという方がいた場合、マッチングするような人が支援員として各地域交流センターにいと良いと思う。それは市が率先してマッチングをするような機能を果たすことが必要かと思う。

< B 委員 >

担い手不足のことで、2点ほどお伝えする。

私自身も、地域のまちづくり協議会の健康福祉部会の副会長でさまざまな事業を行っている。その中で感じたことが、どこの町内もさまざまな事業があるが、やはり参加した際に「楽しいな、私が必要とされているのだな」と思うような仕掛け、人間関係づくりをしっかりと行っていけば、「私でもできる」という気持ちになると思う。参加しても意味がないようなことではなく、今あることの中で気をつけながら、いつも来てよかったと思うようなことをしていかなければいけない。いきなりリーダーにはなれないので、プロセスの中で、「自分もやってみようかな」「自分でも役に立つ、こんなことができる、この人とこの人なら一緒にできる」というような、仕掛けを作っていくことが大事と思う。

もう1つは、さまざまな役員がある中で、「役員になった、これは役員だから大変」という風に皆さん思います。「民生委員も大変、福祉員も大変、部会長も大変」と言います。そういったことはやめて、「あなた1人がやらないといけないのではなくて、一緒にやろう」。共同代表や主とサブと入れながらやるなど。私は健康福祉部会ではシニア層の事業と若手の事業と2つに分けて、若手は若手の中でリーダーを育てるためにやっている。シニア層はシニア層でやっており、その2つを併せて健康福祉部会という形でやっている。1人の人がたくさん役を持ち大変ということがあったら、若い方は特に働いているので、仕事、家庭もあり地域活動はとてできないと思う。そうではなくて、「地域活動も楽しい、私もできる、あなたも一緒にやろう」という風な取組の仕掛けがすごく

大事ではないかなと感じているところです。

<C委員>

私も担い手不足というのは、少子高齢化で避けては通れないと思う。そこで秋穂二島地区で考えているのは、未来に託す準備をして、小・中の子どもたちの準備でふるさとに誇りを持つということ。未来に向けた考え方を彼・彼女らに求めて、熟議の中では大人に負けないような考え方を既に持っている。自分たちが未来にこういうことがしたい、こういうことをしてもっと二島を良くしたい、そういう思いが非常に強く、大人が逆に学ばなければいけないというところがある。そういった中で、各10地区ある自治会長が勉強会を開いている。そこで、子どもたちの考えと自分たちの考え、地域の問題点、そういったところを挙げて、対話をしている。なおかつ、何か問題点があったら、おやじの会、お助け隊、そういったものを作り、そのお助け隊を作るにあたっても、二島地区で3年前に人材バンクを立ち上げており、その人材バンクでピックアップして欲しいし、問題解決なり、担い手もそういったところで抱える。

また、子ども広場をやっている中で、親子カフェには中学生のボランティアが来て、手伝いをしている。そういうことも含めて、模範を示すようなお父さんお母さんがいるわけです。そういった人にも着目して次の役員などをお願いしており、かなり若返りしている。私の次も既に決まっている。継承できていない歴史や文化については、子どもたちにはきちんと勉強してもらい、そういったことも含め、小学校では地域の冊子を校長先生を中心に作成している。将来に向けた子どもたちに夢を託すと、おそらく世界に向けてどんどん出ていくと思う。出ていっても、そういう誇りを持つと、二島は良かったと帰ってくる子もいるのではないかとということで、今の活動をしている。

<D委員>

地域についての考え方をもう一度考え直していただきたい。地域という言葉が出ているのですが、21地域というのは「形式地域」です。市の行政地域です。そうではなくて、実際にさまざまな問題が起きているのは、人間が実際に活動している地域。これを「実質地域」といいますが、実質地域の中での課題がたくさんある。したがって、どういうことを考えていけばいいかということですが、21地域がバラバラなことをやっていたら駄目です。資料3を見ていると、同じようなことを各地でたくさんやっている。やはり意識を変えて、「これは私の所の地区にもある」、それから「隣の地区と一緒にやったほうがもっと効率が上がる」、そういう事業がたくさんあるような気がする。つまり、人材の交流を促進していただきたいということです。人材交流をやらないと駄目だと。昔、農村部に行くと「結」制度というのがありましたが、そういう風なことを、「手間換え」とも言いますが、お互いにやっていかないといけない。しかも顔が見える範囲の人材の交流を進めていかないといけないと考えている。

次に、子どもを集めれば良いというのが、最近ずいぶん流行っている。中高生がさまざまなイベントに参加している。ところが、調査を見てみると、逆に子どもの立場から

は、「俺たちはなんで駆り出されなければいけないのか」、そういう意識が非常に強くある。そのことを忘れて「子どもが来たらいっぱい何かある」とか「若い人たちにどんどんやらせたらいい」というのは、ちょっと軽率になると思う。そのあたり気をつけて、子ども対策を対応させないといけないと思う。

それに関連して、資料5の2ページに「地域の人たち、特に若い人の価値観が変わってきている」と書いてある。私は価値観はそんなに変わっていないと思う。そのことを意識していないと、これは子どもに対しても、高齢者に対してもそうですが、対応できないと思う。というのは、価値観の定義が違っている。ここで言われている価値観というのは、考え方がその都度変わっているというだけのことであって、日本人の価値観はそんなに変わっていないと思う。文化や歴史を同じにしているわけですから、人間がどういう風にしたら幸せなのかという考え方、これについてはほとんど変わっていない。人口減少の中で、先ほどA委員から話があったことは大事なことです。私は「縮充」と言っていますが、地域の縮充が非常に重要だと思う。そうした中で、Well-beingを壊すことなくやっていきたいことが、「近隣地区との協調」、「柔軟な連携体制をつくっていく」ということです。それから、先ほど言いましたように、「人材の流動化」をぜひ進めていっていただきたいと思っている。

<E委員>

公私でこのテーマを考えてみて、私もいち町内会の住民で活動も参加させてもらっているが、公の市社協では、本当に皆さん、特に自治会長さんはじめ、先程も「民生委員、福祉員がいない」という話があったと思うが、いろいろご迷惑をかけて、やはり今、課題という部分では、本当になり手がいないのは事実です。ですが、こういった福祉活動は必要だという風に言っているが、1人なのでなかなか難しい。

いち住民としては、先ほどA委員もおっしゃられたように、昔からのやり方を変えていかないと難しいのではないかという話でして、うちの町内では少しずつ変わってきている。昔の人の方が強いという部分もあったりするが、柔軟になんとかできているのかなと。それで、価値観という話もあったと思いますが、価値観は変わっていないかもしれないのですが、考え方、メリット・デメリット、その辺りを考えられる方も多くなったと思う。やはり顔を知っている人から誘われたら行くのです。知らないから行かないというのもあるので、その辺りをどうしたらいいのかと思うのですが、地域も大きい単位と町内とか色々あると思うのですが、まず町内の中からそういった形で声を掛け合う体制をつくるしかないのかなという風に思う。

それから、もう1つのテーマ2ですが、うちの立場から言うと、例えば市社協、特に地区社協と絡むことが多いです。それで、研修で行うのが、人材がいないことは仕方がないので、平成30年から社会福祉法人が地域貢献を全面的にしないといけないという法がありまして、そういった社会福祉法人を人として思ってもらい、例えば町内活動とか、まちづくり協議会とか理事会の役員に入れてほしいと思っている法人もいたりする。なので、まず地区社協とそういった連携から始めて、あとは受け入れ側の体制もですが、

社会福祉法人だけではなく企業さんのところにもあると思うのですが、そこを巻き込んで、一緒にまちづくりなど取り組んでもらえないかという話し合いができないかなと思っている。今、地区社協の方が、2事例ぐらい一緒に入ってもらって、法人さんに。例えば「ふれあい・いきいきサロン」というのがあるが、そこに携わってもらえないかとかということで進めていることもあるので、まちづくりも同じような観点でできるのではないかなと。そう思いながらも、さっき言ったように受け入れ側が、よく昔言われたのが、「法人とか企業はちょっとなかなか巻き込みにくい」とか。今はわかりませんが、そういったこともひとつの施策としてあればいいと思います。

それと、テーマ1とテーマ2に混在するが、最近は働いている方が役を担うということが多いです。難しいかもしれませんが、「市としてどのような支援や取組が有効であるか」と書いてあるので、「市役所が若手職員の方に研修をされている」というような部分を、出前講座みたいなのを市がされているで、会社などにそういった施策というか、呼びかけていただいて、例えば市の方だったら、地域活動に参加するのであれば特別休暇か何かある。そういったことを推進するとか、公表するとか表彰するとかすれば、広がっていくのかなと。町内の人だけではなくて、民間企業とか社会福祉法人も巻き込んだらどうだろうかという、私の私見の提案ということ。

最後、C委員がおっしゃられた福祉教育という部分で学校は行くことが多いです。その時にどうしても学校側は、「車いす体験がしたい」、「手話体験がしたい」、そっちの視点が行くのですが、先ほどおっしゃっていただいたような、地域に根差すようなボランティアのことも、先生方にもっと勉強というか、「こういった学習もあるよ」というのをうちも言わないといけないなと思って、勉強になりました。ありがとうございました。

< F 委員 >

私は公募委員ですが、職業は個人事業主として地域限定旅行業というものを営んでいる。旅行業なので、大きくはJTBとかと同じ仕事なのですが、どこかへ行く旅行ではなくて、山口に来られた方に対して、地域との交流とか、地元の人しか知らない、そういうのをガイドというようなことをするのを仕事としている。主に山口市内全域を対象にしているのですが、今は徳地地域との関係が特に強くなっており、山口観光コンベンション協会徳地支部の副支部長としても活動をしている。住まいは大殿なのですが、徳地地域との関係があるということと、以前、20年間市役所の職員として働いており、その時に小郡地域交流センターに2年間勤めさせていただいたことがある。

それで、そういう視点で見て、テーマ1・テーマ2ですが、今、地域づくり活動を主にされている方が団塊の世代が一番ボリュームゾーンで、その前後の方たちが頑張ってなんとか続けていけているというような感覚がすごくあり、もうその方たちが活動できなくなってくる、これから5年後10年後というのが、本当にどうなるのだろうと思う。今の70代の方というのは、高度経済成長で働いてこられていて、年金もあるしボランティアでも活動ができるというところがあると思うが、やはり私などは就職氷河期の真っ只中の世代なので、そういうボランティア活動を、かなり関わり方も多様になってい

ることもあり、お金を貰わずに働くことに時間を割くということが、現実的に難しいことをすごく感じている。「地域づくり活動、一方でボランティア活動である」という考え方を、根本から引いていかないと難しいのということをすごく感じているところです。

そのうえで、今後のアイデアになるかわかりませんが、1つは、お金を貰って働いている方をもっと有効活用できないかなというのがある。具体的に、地域づくり協議会の事務局の方とか地域交流センターの職員の方が、それぞれの地域によっても違うと思うが、私が経験したり見たりした中で、地域の大きなイベントにすごく時間を取られている。お祭りとか運動会とかということに、市の方からお金が出て働いている方の大切な時間がすごく使われているのが、本当にいいことなのかなと感じる。1日のイベントのために1か月はその準備ばかりとかという状況になっているのが、大事な人材をうまく使えているのだろうか、そういうこともちょっと見直してみる時期に来ているのではないかなというのをひとつ感じる。

それともう1つ、私自身、旅行業をしようと思ったのは、主に山口市の人口減少が激しく進む地域、徳地もそうですが、そういう所に交流人口を呼び込んで、そこを第二のふるさとと思ってもらい、リピーターをつくったり、今「関係人口」といわれる方をつくったりすることによって、なんとか徳地をなくならず済ませたいという思いでやっているのだが、地域づくり活動の方から見ると、それって営利目的。たしかに、生きていけないといけなので、自分が稼ぐ部分は必要ですが、やはりお金儲けのためにやっているのだから、「地域づくりとして関わるのとは、ちょっと一線を」みたいな雰囲気があると思う。しかし、今からの地域をどう残していくかということを考えた時には、私たち現役世代としては、「稼ぎながら、稼ぐことは地域づくりにつながっていく」という取組に対するご理解とか支援などがもう少しいただけるようになると、少し上の方からも「稼ぎながら地域をつくっていく」取組に対するご理解とかをいただけるようになり変わってくる。意識転換みたいなのところでもあるかと思うのですが、そういう風に感じている。

<G委員>

地域に入ってすごく良かったと思ったことは、顔を覚えてもらうこと。顔を覚えてもらうことで防犯にもなる。子どもたちが覚えてもらい、挨拶したら「この人、知ってるから」とか、子どもが怖い人、怖い人でなくても、何か話しかけられていたら、守ってもらえるではないですが、「大丈夫？」と声を掛けてもらうことが良いということで、地区に入るがきっかけに私はなった。それで、今、小学校のPTAであったり、地域の子ども食堂、炊き出しのボランティア、体育部などさまざまな形で地域と関わらせていただいている。こうした中で感じることは、やはり地域を支えている人が限られているということで、自治会の加入も少なくなってきたりして、関わる人とそうでない人との距離が広がっているように感じている。自分がPTAなどしていても、アンケートをとると9割の人が「楽しかった、良かった」、1割はすごいひどいバッシングなどがある。やはり匿名で書ける書き込みというものもあって、すごくつらい言葉などもあり、しんどいと思うが、それこそ模範になるような人を探していくと、「大丈夫」「よくやって

るよ」と言って、声を掛けてくれる人がいるので、続けていくことができるなと思っている。

それで、若い世代の人たちもやはり子どもたちのことを思って、地域を大切に思う気持ちは皆様あって、きっかけや小さな役割があればやるよと言われる方が多いので、一人一人が少しずつ持てるような仕組み、巻き込み方が重要。本当、共同代表ってすごくいい言葉だなと思う。それで、やはりメリットの検討をすごく今求めてしまっている若い人たちも多いと思った。

だから、すごく今日来て良かったです。勉強になりました。ありがとうございます。

< H委員 >

私は小郡出身で、大学進学から関西へ出たが、地域おこし協力隊としてUターンしてきて、現在は小郡と、仕事の関係で阿東地域と関わって生活をしている。

資料を読んでいた時に、県外から結婚を機に移住してきた夫に、「地域づくりと聞いてどう思う？」と聞いてみると、「うーん、ちょっと正直ピンと来ない」と言っていた。私自身も地域おこし協力隊ということで地域に入って活動していたので、地域づくり協議会の方とか自治会はどんな感じかはわかるが、やはり働いている、働き世代というかそういうところは、ちょっとどういったことをしているのかイメージがまずできないというところが、関われない・関わっていない理由かなと感じる。

なので、地域づくりに関わる、先ほども皆さんが言われている、メリットだったり地域づくりが根差していたりがあるから、こういうことが成り立っているというところを、シンプルにA4の1枚などで、すごく良いことをしているということを視覚的に示すというのが、伝わりやすいのかなと感じる。「見える化」と、小さく関わるところをやるということで、先ほどC委員が言われた人材バンクは、すごく良いなと思った。人材バンクに登録して、例えばチラシが作れる、何か企画ができるなど、それを協議会運営費の人件費のところから少し出して、有償で仕事というか、「地域づくりなのだけど、お金も発生する」ということで、子育て世代とか、あと副業、働いているだけだとなかなか収入を増やすことはできないが、地域づくりに関わることで、役に立ちつつ少し収益が増えるということであれば、まさにメリットではないかなと思う。

それで、この実績、資料3を拝見して、「吉敷地区の人材発掘に向けた交流事業」が、すごく素晴らしい、評価される事業ではないかなと思った。若手とされる人たちと古代米を作って交流したということですが、そういった取組をフィードバックして、それらを地域に良い例として共有して、外部、人材だったりアイデアを、町内全域で共有することもしていけるといいのではないかなと思った。

< I 委員 >

私は、小郡地区の自治会の方の会長をしています。事業としては、さまざまなことをやっていますし、自治会も会員名簿を作って、自治会長さんにも出してもらうようにしていますし、それぞれ参加はしていると思う。しかし、小郡の自治会としては、63地区

あるが、マンションが建っている所など自治会がない地区がいくつかある。その辺りがどうなるのかというのと、やはり今度は高齢化してきて、自治会を辞めないといけないぞと。だから、この中にもあるが、すごく加入者が少ない。地域によっては、アパート群が建っていくと、そこは外そうという風なことになってくる。ある程度の地区は前々から法人やアパートの方にも入っていただくようお願いしている。

さまざま問題はあるが、人材というのは探せばいるかもしれないが、本当に今思っているのは、自治会のメンバーです。それも体育委員とか子ども会などはゼロも出てきている。これが40、50、60と上がってくると、10人いた人が1人か2人になってくる。私の地区は結構いますが、全然いない地区もある。それから駅南は、誰が自治会を作るのか。昔からこの辺りの企業の方とか、「昔からここに住んでいるからしょうがない」とやっているということがある。反対に1年2年で会長が交代していると、やはり自治会の力が弱くなっていくというのが事実です。私、前から副会長を十何年もやっていましたが、田舎ですので誰かいないと地域としては良くなっていかない。何かあった時に対応できない。それを自治会の人に言うのですが、会長や役員の方にいないとできないのだから、誰でもいいから、とにかく繋いでもらいたいなど。それで、連合会の方も毎年1人いますが、誰を理事にしようかとなると、そのぶん仕事が増える。私も農業をしており、本当に皆忙しいのですが自治会としては色々出てきてもらって、何か行政とのパイプ役になってもらいたい。それだけでも良いから、力がある時は地域づくりの行事にも参加してねという風に自治会長さんには言っている。

地域づくりは充実そのもので、事務局の方々もバリバリやってらっしゃいますから、ふるさと祭りや花火大会という大きな行事ができる。今度イルミネーションも11月から始まるが、そういう時にはやはり色々やってきてもらえる。なので、そういう風に出てこられる方が、地域にも、子ども会が終わって、その次になった時に出てきてもらいたいと思う。

それから、私の地区も子どもが少ない。昔は若い人衆がいたのでお祭りなどできたが、今はできない。一番悲しんでいるのは、運動会も63地区あって十何地区しか出ない。やはり、人が揃わないと出られないというのががあるが、その辺りすごくジレンマがある。古き良き地域であれば良いが、半分は新興、半分は昔からの地域なので、その辺りをどういう風に治めていくのか、またどういうことをしたら良いのかというのは、すごくジレンマを感じているのは事実です。活動は栄えるかもしれないが、集落は崩壊していくのではないかなというのが、私の懸念です。絶対そういうことはないと思いますが、もう少し自分が住んでいる地域の小さいことから大事にしていだけたらということが、私の思いです。

<J委員>

連合自治会長2年目になりますが、陶という地域は農山村地域ですが、人口が今年の6月に2千人を割って、数年前がピークという地域です。この陶の地域づくりをどうしようかというのが、最大の課題です。今、山口市の方で、山口都市核と小郡都市核と、

	2つに分けてまちづくりをしていこうという風な方針になっているわけですが、陶地域は小郡の隣にあって、「ここは農山村地域」と言われるとそうなのかなという風な感じがする。 それで、今、私が一番危惧しているのが、この小郡都市核を中心に、その周辺の地域が、10年後20年後、どういったまちづくりの方向に行っているのかというのが、非常に気になっている。今の状態でいくと、10年後20年後は人口が6割ぐらいになるとか、そういう状況になっていくので、このままのまちづくりでは非常にまずいというのが、一番危惧しているところです。これを山口市の方でどういうビジョンが描かれるかというのが、一番、今、興味を持っているところです。 そうは言いましても、今の現状でこの担い手をどう作っていくかというのが非常に問題になるわけですが、現在さまざまな状況でこれは日本全国同じですが、働き方の変化というのも非常に大きいだろうと思う。これは自治会だけではなくて、他の外部団体等の役員にしてもそうだと思うが、なかなか役員になる人を連れてこれられない状況がある。先ほどあったが、さまざまな組織で、従来の規模の組織がずっと続いて、場合によっては同じようなものが来ているので、集約して、もっと機能的な組織にしなければいけないだろうなという考えはある。しかし、まだ自治会の中の人の方の考え方がついていないので、ここ数年では、そんな風に組織を変革していかなければ立ち行かなくなるだろうとは思っている。 現在、陶地域ではさまざまな行事が行われ、先ほど地域交流センターの職員が行事の準備で時間を費やされるということもありましたが、準備をすることによって、地域の人との繋がりがますます深くなって、さまざまなことが頼みやすいというような状況はあると思う。陶では、陶地区民運動会や陶のふれあいまつり、夏フェス等々では、人口2千人を切ったわりには、かなり多くの地域の方が、子どもから大人まで参加していただいている。その中で、さまざまな行事を企画するのに、若者グループ、若者といっても40代が中心だが、このグループがさまざまな行事を全て企画して運営をしてくれる状況になっている。私たち役員は、その若者グループが作った企画をただ実行するだけというような状況になってる。ただ、若者グループは良いのですが、先ほどから出ているように、60代、この人材が非常に不足していて、例えば自治会の役員になる人が、なかなか難しく、それで集落の自治会長をやった人を一本釣りしてなんとか繋いでいるという状況になっていると思っている。 そういうところが大きな課題かなと思いますが、40代がしっかりやってくれていますので、今なんとか成り立っている状況です。この担い手に関しては、60代をいかに自治会の中に取り入れていくかというのが課題になっている。 <K委員> 白石地区は、人口が1万強だが、元々白石地区に住んでいる人が、Uターンしてきた人を含めて2割しかおらず、残りは流動的な地域です。だから、5年に一度アンケートをとるが、地域のことをよくわからないという人が非常に多い。実は今年も第4次の5
--	---

か年計画を策定中だが、アンケートは2千通を無作為に送付する。35%は返ってくるので、そういう意味では市街地の人も真面目だと思っている。今年は16歳以上の2千人にアンケートをとったのだが、地域の密着度がやはり若干下がっている。ただ、その中で、これまでもあったが、地域のことを知らない。白石地区も大殿地区に準じてさまざまな歴史的な遺跡、お祭りもある、とにかく地域を知ってもらおうということで事業を展開した。

それから白石地区には、小学校が2つ、中学校が2つ、高校が2つある。マンションがどんどん建っている地域ですが、白石小学校と白石中学校のおやじの会、PTAを中心として、五十鈴川の清掃などを手伝ってほしいというお願いをした。強制は絶対しないが、結構集まってくれる。地域づくりの理事会を年4回やるが、その後におやじの会との交流会を実施している。意見交換をして、今年からご婦人の方も参加をして、結構仲良しになる。それで、例えば白石の公民館まつり（白石フェスティバル）に中学生・小学生が参加してくれているが、中学生・高校生にブースを1つ任せて、企画から全部やらしてもらおうということで、現在やっている。高校は中村学園が参加していますが、山口高校までいっていない。五十鈴川の清掃は、附属小学校・中学校もすごく熱心に参加している。附属の生徒は、白石地区だけではなく、防府からも小郡からも来ているが、川遊びができるので、嬉々として集まってくる。そういったところで、私も年頭の挨拶で広報紙に書くが、とにかく楽しくやろうよと、もうそれだけだよと、それで、どう楽しくやるかを喧々諤々ワイワイ集まってやろうよという風に毎年書いている。あと、先ほどもあったが、呼びかける際に出てみたいなの思っている自分から手を挙げて出られない人を、どう背中を押してあげるかを部会などの会議で話をしているところです。あと、地域の担い手確保促進特別交付金についてですが、担い手確保で去年からプレ事業を始めた。小学生の段階で、5年先、10年先ではなしに30年50年先に白石の地域づくりに「俺はやるよ」という子を作ろうということで事業を始めた。ところが、この特別交付金はそれに該当しないようです。令和7年度から始めた事業は交付金が出るが、それ以前に始めた事業には出ないとのことで、そこを考えてほしいと思っている。

それから、自分の町内会でいえば、白石地区もそうだが、子ども会がほとんど無くなっている。子ども会育成会のお母さん方に聞いてみると「会議が多い。小さい子どもを抱えて夫婦共稼ぎの中、会議に毎たび出られない。」という話で辞めますと。それで、私の町内の子ども会でも16人小学生がいるが、子供会は7人。理由を聞いてみると、その内6人が「うちは附属だから、白石の町内ではない」と言う。それは違うと言うのですが、「あの子が出ないのだったら、うちも出ない。役員になるのも嫌だ」というような状況がどうもあるようです。

それで、やはり会議のやり方を考えないといけないということで、オンライン会議にしたらどうだろうかという話をしている。

<L委員>

母親クラブのことで言うと、昔は30以上、阿東から小郡、秋穂まであったのですが、

母親クラブもやはり共稼ぎの関係で、今は山口市内10クラブしかない。やはりメンバー数もかなり減ってきており、なかなか活動ができない。うちのクラブは勉強するお母さん方のサポートをするために、さまざまな講習や保健センターなどで離乳食の講座等を実施しますが、その時にお母さんがお勉強をしている間、お子さんを預かっており、やはりタダではなかなか人が集まらず、一応有償のボランティア活動という形でさせてもらおうと、常連さんが何人もいらして、すごく頼りになるメンバーになっており、それは大変ありがたいと思う。

それから、地区のことを言うと、私、班長はしたことがあるが、直接自治会の関係ではほとんど関わっていない。そのため班の中だけのことしかわからないが、昔は毎年正月に新年会をやって、全軒16軒ぐらいですが、全員の戸主さんまたは奥様が集まって、宴会をしていましたが、コロナで駄目になり、そのあと「もう世話をしたくない」、「やめてくれ」ということで、今は実施できていない。そうすると、今までは顔を合わせると名前と顔がわかり、地域で繋がれる。それが、今はまだ覚えているから良いが、もう少ししたら、どこの誰だか、日常会話すらしないとなる。それはもう地域の一番大本になる、隣近所の繋がりが、もしかすると消えていくのかなという不安感がすごくある。

それから、地域の全体の行事のこと、皆さん言われているように、夏と秋と祭りをしているが、こんなに人がいるのかというぐらい人が出てくる。お世話はしたくないけど、おいしいものがある時には皆さん出てくる、だから、難しいと思う。本当に市の交流センターの職員さんや関わられた方が、もう10年単位の方たちがお手伝いに来られ、ものすごくよく働いている。本当に感謝しています、ありがとうございます。

あとは、母親クラブとして活動している中で、私の個人的に不安なところは、今、核家族が多く、その家の伝統も歴史も全部途絶えてしまう。うちは神社を戸別にしているのですが、別の家になったら、「一切祀りごとはしません、もうやめます」というところがとても多い。どこの地域もそうみたいですが、その家の歴史、自分のルーツ、それから地域の歴史、そういうものがわからなくなると、もしかしたら日本民族って滅びるのかなと、すごく今、不安に思っている。「自分の国の歴史や神話を知らなかったら、100年でその国は滅びる」などと言われて、非常に怖いのですが。ただ、ひとつ救いなのは、今、小学校と中学校、大歳小学校とそれから鴻南中学校ですが、「好きです大歳」「好きです鴻南」というスローガンで、小学校のほうは、地域の歴史とかいろいろな物事を、地域の方を呼んで、小学生と学校の中で交流をさせていただく機会が、年に数回ある。その人はよそから嫁に来ていて、地域の歴史は詳しくないが、わかる範囲でそういうものを伝えて、ふるさとにやはり愛着と誇りを持ってほしいという思いがすごくある。それで今、うちの神社の境内で、宮司の許可も得ずに勝手にキャンプをしてバーベキューをやっている。心のふるさとを子どもたちに持っていてほしいなど。やはり自分が愛するふるさとを見つけた子は、もしかしたらまた帰ってきて、地元に貢献してくれるのかなという思いは少し持ったりしている。やはり転勤族とか異動する方が多いので、人口は多いのですが、氏神様がなんだかよくわからない、氏神様がどこにあるかも知らない、そういう方が多いということは、歴史がだいぶ廃れてきてしまって、滅亡寸前か

なという、非常にそういう意味では恐怖感を持っている。ひとつはやはり顔と顔を合わせて交流ができて繋がれるという場をどういう形で作っていけるか。先ほど子ども会を言われていましたが、やはり「上のほうにいて役をするのは嫌だから辞めます」、子どもは「子ども会を辞めたくない」と言うが、親が辞めてしまう。だから今、集落での子ども会は3つぐらいしかないんです。

<M委員>

2点だけ。「やめられるものはなんでもやめてしまえ」、「減らせる役員は全部減らせ」という形で、ここ数年で役員を約半分減らした。20数人もいて、自治会の中の世帯数が50いくつです。半分以上が役員というのは、意味がないだろうということで、片っ端から役員の数を減らした。

それから、花見、バーベキュー、これもやめさせてもらった。お世話した人間だけが、えらい目をする。花壇の育成についてもたった1人花壇係を作ったら、花壇係の人が1年間一生懸命育てるだけで誰も世話もしない。そんなものはもうやめてしまえということで、やめられるものは片っ端からやめて、今、地区の清掃のみ皆が一緒に集まるという状態までなんとかもってこることができた。今年と来年で、私は自治会長の任期がようやく終わるのですが、2年交代にしないと、後の人が続かない。大きなところから言わせると、「何年もやってほしい」と言われるが、そんなこと1人が10年もやっていたら、次、絶対いないようになるということがわかっているので、2年交代にしようということで、コロコロ代わっていつている。

あと、1点だけお願いしたいのが、市や地域づくり協議会に交付金や助成金などの申請書や資料をたくさん書かないといけない。ほとんど同じ内容で自治会長の名前と日付が違うだけのものを、前の自治会長さんの方も巡って、また書かないといけない。いっそのこと、そういう書類的事業を、地域づくり協議会なりが皆やってくれと、すごく助かるというのが私の意見です。

<N委員>

ここの意見の中で出てきたものは、皆様同じようなことが出ていたと思う。自治会に加入する人が少ないというのは、何か市で施策としてやっていただけないかなと思う。なかなかそういったことはできないのだろうが、何かないと非常に次が難しいかなと思う。

それから、今あった、子ども会が無くなってしまうというのもそうですし、そういったことも、私も非常に感じている。それで、自治会の中に入っていない公務員の方たくさんいる。やはりそれを、条例にしても、この協働のまちづくりの中でも、市職員が積極的に参加というのがあると思うが、なかなか地域で顔を見ないことが続いている。資料5の7ページの小郡地域の「ボランティア登録制度の構築」とあるが、この中には市役所の方がきちんと入っているのかと聞きたい。

それから、中学校の部活動がなくなる。これは反対にチャンスかもしれない。各地域の方々に対しては、やり方次第ではコミュニティづくりで一緒にやっていけるのではな

いかと感じている。

それから、さっきF委員がおっしゃっていた、ボランティア活動に対価が必要ではないかということについては、そう思います。我々は商店街で活動してくれた者に地域券みたいなものを配っている。これは紙の媒体ですが、ぜひ山口市としてデジタルでやっていただきたい。それはやはり山口市で登録された、その地域で登録された場所で使えるという考え方だとスッキリしているのではないかなと思う。

<O委員>

皆さんのご意見、こういう声が反映できるような、ぜひ、施策を練っていただきたいと私も思う。今、非常に耳の痛かった、N委員が言われた公務員が地域自治会の役員にいないということは事実です。これを重く受け止めていただきたい。

それと、逆に言えば、山口市はきちんと地域行事に対して支援する、そういう制度があるので、これは山口県下でも珍しいです。少し事例を言いますと、長門市は逆なのです。地域に出たら、「すみません、代休ください。今日はちゃんと補填があるのでしょいか」など、平気な形で言われる。それに比べると、山口市は市の職員も積極的に地域行事にきちんとした形で参加できているというのは、非常に素晴らしいことだと思うので、そこは褒めていただきながら、今度は、住んでいる地域の役員としてぜひ本領発揮していただきたいと思う。何故かという、文章能力であるとか、できることがたくさんある。M委員が言われたように、そういうところをお手伝いするというのは非常にできるのではないかなと思う。ですから、餅は餅屋で、自分たちが住んでいる地域に対して、「ちょっとこれは僕できる」、「こうやったら皆さん覚えますよね」という形でアナウンスするなど工夫があれば、役員でなくても、こういうことができるという人が出てくると、地域の違った形での活性化ができると思う。私も、地域を跨いで、山口市に住んでいるが、それぞれ良さがあるので、よくわかる。そういう所にぜひとも、住んでいる皆さんがそれぞれの得意技を少し登録するだけでも違うと思うし、それが、役員といわず、「私、何々ができる」でも良いと思う。そういう、小さな枠組みがあれば、楽しい地域になるのではないかなと、私は今、皆さんのお声を聞いて、すごく思った。

前回の任期の中でも話をしたが、もう少し自分たちができることを地域に還元していきましょう。働いている中で、さまざまなスキルアップをしていると思う。それを地域に還元するというだけでも、皆がニコニコするような感じになると思う。

<P委員>

皆さん言われることはご尤もなことばかりなので、私があえて言うことはないかなということで、あえて皆さんと違うことを言わせていただこうと思っている。

自治会、特に今、皆さん共通する、自治会・地域の活動に人がいないという話なのだろうと思うのだが、それはやはり自治会という既存の枠組みがあつての話ではないかなと思う。実は県内に自治会のない自治体があるのですが、そこはそれで成り立っている。ということを見ると、自治会という枠組みをなくするという話ではないのですが、自

治会というものが、なんで要るのか、どう機能しているか。やらないという方々は、やってくれと思う方と同じ方向の意識を持っているのかなという。意識がそもそもなければ、やらないということになるのは当然なのだろうと思う。そういう意味では、L委員が言われた家という単位というのは、本当に僕は大事だと思っている。うちの家の中でも非常に困ってまして、うちの実家が、墓が、まだ30基、40基、50基ぐらいあるという所がある。山の中腹にあって、車も上がれる所ではない。墓山の所の墓じまいをされている所が非常に多くなってきている。そういう、非常に、機能化・合理化というのがどんどん進んでいる中で、自治会という枠組みは昔からずっと続いてきているところが、どうかなという。自治会というものを変えましょう、やめましょうという、先ほど「やめるものはやめたほうがいい」という話もあったのだが、やめられるものはやめるほうがいいと思うが、今見ていて、例えば小学校や幼稚園の運動会が午前中だけで終わるのが当たり前になってしまった。これでいいのかという。それは非常に機能的・合理的だろうと思うが、そういうところで、昔は運動会に地域ごとに席があった。それで地域の方々が弁当を皆で囲んでというようなところで、初めて顔を合わせたりすることもあった。だから、どなたかが言われたが、結局、顔と名前が一致するというのが、最高の地域づくりではないかと思う。どちらかというときできない理由を色々出されるが、できない理由というのは、顔見知りだったら、「ちょっと出ていこうか。しょうがない、あの人が言うのなら」という話になる。今ここの面々でも、私も5分の1ぐらい顔見知りの方々なので、山口市役所に行っても、協働推進課長の顔を見たらちょっとホッとするというようなところもある。やはり、そういうものが究極の地域づくりではないかなと思う。

<会長>

地域に皆さん深く関係されている方だけあって、非常に重たい話が多かったという気もする。その中で、斬新なアイデアがあったことも、この会の意義だったと思う。P委員のご意見は私も重要と思っており、P委員もこれを強調されたように、自治会は別になくても良いのではないかという話では必ずしもないと思う。やはり何故あるのか。もちろん無くなると、防災をどうするのか、ゴミを捨てる所をどうするのかという話にも繋がっていってしまうので、やはり無くすということは相当チャレンジングだと思う。反面、先ほども現代社会は地域社会がなくても生きていけるような仕組みがあるため、そことの関係をもう一回原点に立って考え直すということが、実はメリットが大きいのではないかというご指摘があったと思う。そういった意味で顔と名前が一致するような関係性を立ち上げるにはどうするのか。楽しみが大事とか、さまざまとあったかと思う。そこの辺りも考えていくと、より良い地域づくりに向かえるのかなという気もする。とはいえ、地域はそんなに簡単ではないので、まだまだ困難もあるかと思いますが。

	本日はご意見いただき、ありがとうございました。 それでは本日の議題は以上となります。質疑のある方はお願いをする。 －質疑なし－ 全ての議事を終了し、進行を事務局に返す。 <事務局> 閉会の辞 以上にて、第1回山口市協働のまちづくり推進委員会閉会 会議終了
会議資料	・配布資料 1 次第 2 資料1 令和6年度事業実績（概要） 3 資料2 令和6年度事業実績一覧 4 資料3 令和6年度地域づくり交付金事業概要 5 資料4 令和7年度実施事業 6 資料5 持続可能な地域コミュニティ（地域づくり協議会・自治会）に向けて今後の地域づくり人材確保・育成に関する意見交換
問い合わせ先	地域生活部協働推進課 地域づくり支援担当 TEL 083-934-2966